

岡電で行こう 岡山の街

柳沢道生

はじめての旅先の街、主要駅から観光拠点へ歩くにはやや距離のあるケース、バスで行くには路線を調べて、といつても定時運行が確保されていないことが殆どだ。やむなくタクシーで行こうか？よくある場面である。岡山市もそんな街の一つだ。

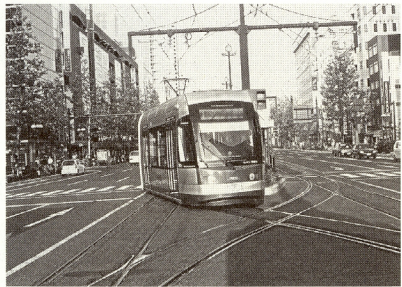
岡山市の観光拠点と言え、後楽園と岡山城があげられる。また、この界隈は岡山カルチャーゾーンと呼ばれる、博物館・美術館の多い地域だ。ただし、岡山駅からは1.5〜2kmほどの距離。歩くにはちとつらいかもしれない。「岡電で行こう」岡電とは岡山電気軌道、岡山の市内電車のことである。岡山駅前から東に伸びる桃太郎大通り。岡山駅前電停その通りの真ん中にある。路線は途中で2に分かれる。

カルチャーゾーン方面には「東山行き」に乗る。停留所のホームは方向別なので迷うことはない。日中でもほぼ5分毎の運転、待たされることもない。また、県庁通り電停までは百円で乗れる。これも嬉しい。ちなみに一日乗車券は大人五百円である。

岡電の歴史は古く、設立は明治43年(1910)、2年後に営業運転を開始している。

現在の路線は東山本線(3.1km)と清輝橋線(1.6km)、路線長は日本の路面電車のなかでも短い部類に属するが、ここには明るい話題が多い。

平成3年(1995)、日本の路面電車初の女性運転士が誕生。平成14年(2006)、岡山市出身のインダストリアル・デザイナー、水戸岡鋭治氏の設計による



桃太郎大通りを進むMOMO



東山本線の終点・東山電停 車庫もここある

新しいコンセプトの路面電車「MOMO」が登場した。通学の女子高生が思わず「カワイイ」と言うというエピソードのあるそのデザイン。JR九州で特急つばめをはじめ様々な車両デザインにより話題を呼んだ水戸岡氏、故郷での代表的な作品がMOMOである。この車両は第一回日本鉄道賞「グッドデザイン賞」ローレル賞など多くの賞を獲得した。

また、かつて東武日光軌道線を行っていたレトロ電車も水戸岡氏のデザインによりリニューアルされ、このほど「KURO」という愛称での運行が始まった。岡電の話題は路線延長や、JR吉備線のLRT(新しいコンセプトの路面電車)化に伴う相互乗り入れなどがある。ただし、これらは現状では構想の域を出ていないようである。

さて、岡電が和歌山の電車を救った話を紹介しておきたい。和歌山市と紀の国市貴志を結んでいた南海電気貴志川線は乗客の減少が続き、平成13年に廃止が決定された。しかし、近隣住民の

でも中納言あたりの昔ながらの商家と電車の組合せは近ごろなかなか目にすることのできない光

景である。タイムスリップしたような、古風な街角に似合う電車はレトロなKUROか、それとも

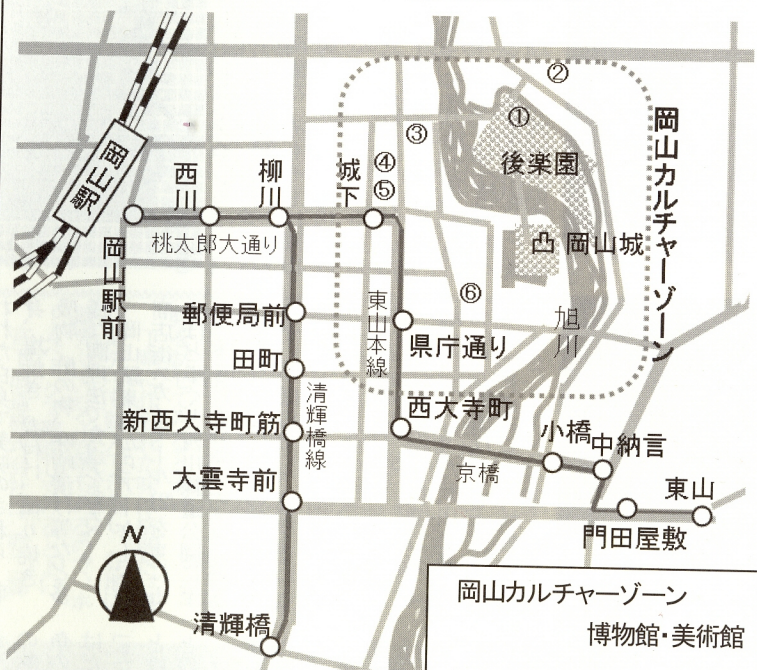
最新式のMOMOか？ そんな想いがふと浮かんでくる。沿線風景である。

運動により存続の方向を模索、この経緯はNHKテレビの「難問解決!」(近所の底力)でも報道された。結果として、線路などの資産を地元自治体がい取り、岡電100%出資の子会社、和歌山電鐵が運行することとなった。平成16年4月から、新しい体制での運行がスタートした。かつての南海電鉄の車両は水戸岡氏デザインの「いちご電車」として生まれ変わった。沿線で「竹久夢二展」が開催されるなど、地域間の縁も深まっているようだ。

お城や後楽園、カルチャーゾーンをめぐって、まだ時間に余裕がある場合、あるいは既に行ったという方にも、お薦めしたいのは、東山本線終点までの、いわば「岡電小さな旅」である。

西大寺通り電停を過ぎると電車はすぐに左折し、旭川に架かった京橋をわたる。橋をわたると小橋電停。ここから先は車窓の風景が一変する。区画整理されていない街並みを見る。電停にして2つほどの僅かな距離だが、な

岡山市内、岡電路線MAP



岡山カルチャーゾーン
博物館・美術館

- ① 岡山県立博物館
- ② 夢二郷土美術館*
- ③ おかやま備前焼工房
- ④ 岡山県立美術館
- ⑤ 市立オリエント博物館
- ⑥ 林原美術館

*はP.32で紹介された施設
下線はP.68~71で紹介された施設

DATA

岡山電気軌道の路線・時刻表・運賃など
岡山電気軌道 電車営業部公式サイト
<http://www.okayama-kido.co.jp/tramway/>

岡山電気軌道の歴史など
「両備・岡電 DIGITAL のりもの博物館」
http://dns1.rm.gr.jp/digital_museum/